



みのかも

みらいの

コンセプト

ブック

CONCEPTS
of the Future
of Minokamo

0

未来はみんなで作るもの

このコンセプトブックは、美濃加茂市で暮らす人たちが、これからも楽しくいきいきと過ごせるように、市役所やまちづくりがどうなると良いかを考える取り組みについて書かれています。主役は市民の皆さんです。未来の美濃加茂市について、一緒に考えていきましょう！



もくじ

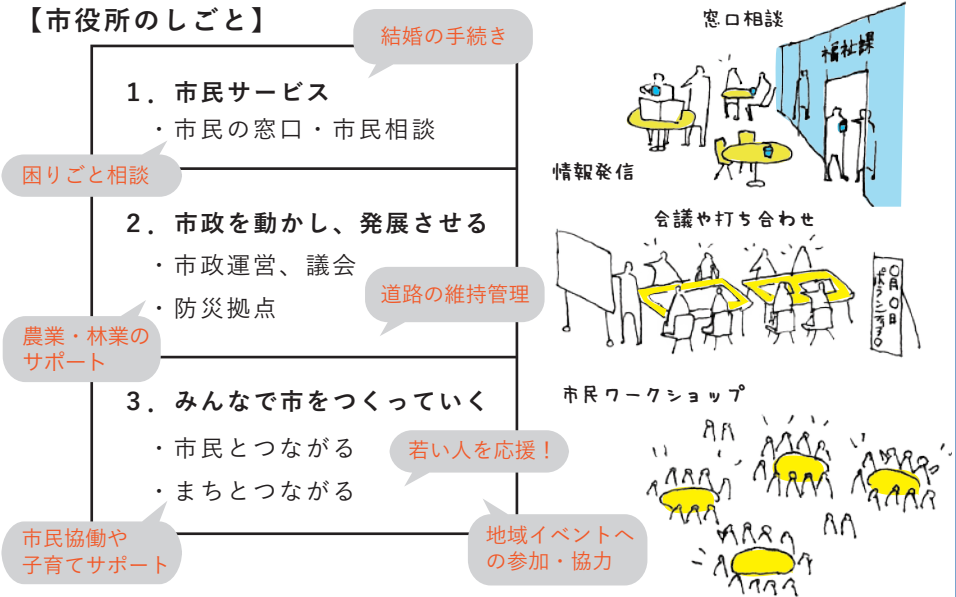
| | | |
|---|------------------|----|
| 1 | 市役所ってどんなところ？ | 2 |
| 2 | 新しい市役所とまちづくり | 4 |
| 3 | 新しい市役所のかたち | 7 |
| 4 | 活動レポート | 16 |
| | ー 新庁舎整備基本構想策定委員会 | |
| | ー おでかけワークショップ | |
| | ー 市民ワークショップ | |

1

市役所ってどんなところ？

市役所は、市民が楽しく健康に暮らすことができるように、さまざまな仕事をしているところです。美濃加茂市が、これからどんなまちになったら良いかを考えながら、河川や道路や施設などの管理をしたり、税金を集め、使い方を決めています。また、まちのすばらしさを伝えたり、困っている人の相談を受けたりしています。このように、市役所は、市の職員が働いているだけでなく、毎日市民やいろいろな人がやってくるところです。

【市役所のしごと】



現在の市役所本館は、昭和 36 年 (1961 年) に建てられ、今も大切に使われています。この 56 年間には洪水や地震がありましたが、改修工事を行い、使い方を工夫することで、使い続けてきました。



しかし、使い続けるには多くの費用がかかる上、社会はとても早いスピードで変化しています。市民の安全や安心を守り、環境問題や人口減少、ITやAIといった技術革新など今までになかったさまざまな変化に向き合っていかななくてはなりません。そこで、美濃加茂市は、平成28年度から新しい市役所について考える取り組みを本格的に始めました。

アンケートやワークショップで聞いてみました！

いまの市役所に対するみんなの声



◎ 良いところ

- ・職員が明るくて親切
- ・駅から近くて便利



× 残念なところ

- ・建物が古くて汚くなっている
- ・駐車場がせまくて車がとめられない
- ・本館にエレベーターがない
- ・玄関が暗く迎える雰囲気がない
- ・行きたい時間に開いていないので不便

△ 良いけど残念なところ

- ・歴史ある場所に近いのにそれが活かされていない
- ・まちなかにあるのに若者や外国人が集まれる場所がない

【解決すべき5つの課題】

- 課題1 古くて使いにくく、大きな地震に耐えられない
- 課題2 せまくて、利用者も職員も困っている
- 課題3 災害がおきた時に頼れる場所になれない
- 課題4 親しみやすさがない
- 課題5 まちづくりを考えた建物になっていない

まめ知識

昭和58年9月28日台風10号により木曾川が氾濫し、9.28豪雨災害がおきました。現在は、排水施設や堤防の整備によって水害は起こりにくくなりましたが、水害への意識の高さは美濃加茂市の特徴といえます。



2 新しい市役所とまちづくり

市役所はさまざまな人が訪れ、多くの人が働き、まるでちいさなまちのようです。人が集まれば、出会いがあり、情報が集まり、にぎわいがうまれます。「新しい市役所をつくることは未来のまちをつくること」と考え、市民のみなさんと一緒に市役所を「未来のまちの姿を描いたり、実際にまちづくりを行ったりすることができる場所」にしていきます。

「新しい市役所づくり」 = 「未来のまちづくり」

美濃加茂市の魅力

美濃加茂市は、交通の重要な場所である中山道の宿場町として栄え、人々の交流が活発に行われていました。太田宿を象徴する本陣門や脇本陣が保存され、地域のお祭りなども盛んで、歴史を感じることができます。また、美味しい農産物が実り、豊かな自然も特徴です。近年では、マルシェやワークショップの開催、女性の起業、新店舗のオープンなど新しい動きも活発で、美濃加茂でしか体験できないまちの魅力が生まれています。



中山道の姫行列



木曾川でのアウトドア体験



ワークショップ「きそがわ日和」

美濃加茂のまちの魅力

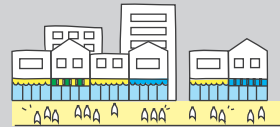
「旧」と「新」が混ざり合って築かれた独自のまち

まちづくりにおける理想の市役所と位置づけ

今的美濃加茂市の魅力や暮らしと、未来のまち・市役所のイメージを重ね合わせ、まちづくりにおける理想の市役所の役割とその位置づけをまとめました。

2050年！こんなふうになったらいいな

未来の美濃加茂市・市役所のイメージ



- ・市民が一日過ごせる市役所
- ・自由に使うスペースがある
- ・用事がなくても行きたくなる
- ・ビジネス交流、情報発信基地
- ・公園のなかの市役所
- ・楽しい広場がある
- ・多様な文化や暮らしがあり、みんなが交流している
- ・空き家や空きビルを上手に使い、まちに人がいてにぎわいがある
- ・太田宿がいかされている
- ・歩いて暮らせるまちがある
- ・災害に強い安全で安心なまち



【理想とする未来の姿】

2050年になってもみんなが幸せを感じることができる
市役所のあるまち

市役所の役割 1

すべての市民の
くらしを守る

市役所の役割 2

みんなの活動を
サポートする

市役所の役割 3

美濃加茂市の
魅力そのものを
向上させる

市役所の位置づけ

市民と共にあるわたしたちのよりどころ
まちまるごと市役所「ふりかえればそこにある あなたに寄り添う」

美濃加茂ならではのまちづくり

【市役所をいかしたまちづくりのポイント】

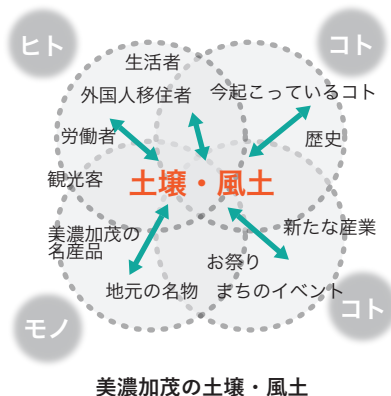
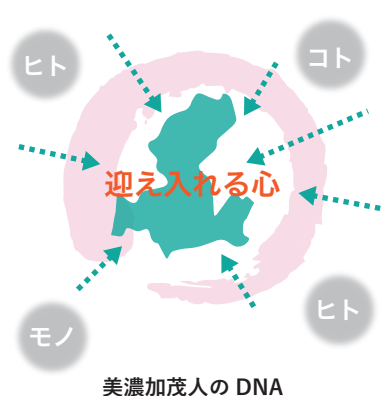
生活と商業を結びつけ、人の流れができるにぎわいをつくります。

地域の活動やコミュニティをいかし、国籍などに関わらず、人と人とのつながりを築きます。

美濃加茂の歴史や伝統を守り、次の世代へ引き継ぎます。

今ある地域の資源をいかします。

ヒト・モノ・コトの行き交うなかで培われてきた「**土壌・風土**」とそこで育まれた美濃加茂人のDNAである「**迎え入れる心**」は、他の地域にはない美濃加茂の特徴です。これを新しい市役所を拠点としたまちづくりにいかし、これからのまちをつくっていくために新しい市役所をいかしたまちづくりの理念をつくりました。



新しい市役所をいかしたまちづくりの理念 「現代版 太田宿」

古いものと新しいものが混ざり合う「土壌・風土」と美濃加茂の人々の「迎え入れる心」を大切に、美濃加茂ならではのまちをつくっていくこと

3 新しい市役所のかたち

新しい市役所のかたちを考えるには3つの視点で考えることが重要だと分かりました。その上で、新しい市役所づくりの基本理念を定めました。

視点1 今の良くない部分を改善する

人が集まれる広いスペースをもつ
しっかりとした防災拠点が必要。



気軽に立ち寄れて、つながりが
うまれる場にしていきたいです。



視点2 これからの世の中に対応する

いろんな活動ができる市役所であって市役
所でない場所になると良いと思います。



こどもと遊ぶ場と保育スペースを
取り入れてほしい。突発的な託児
対応ができるとうれしいです。



多世代があつまる交流広場がある
市役所になるといいな。

視点3 地域と連携したまちづくり



すべての市民がまちと関わり
を持てる場にしたいです。



市民協働の拠点は、民間と
市と一緒に運営できると良
いですね。



市の紹介スペースは、民間
で運営できるのであれば取り
入れるといいですね。

新しい市役所づくりの基本理念

【新しい市役所づくりの基本理念】

みんなのまあるいまちづくりひろば

- ・ 市民が主人公となって日常を豊かに過ごすことができるまちづくりを行う拠点
- ・ 美濃加茂市を訪れる人々が魅力を感じるまちづくりを行う拠点

【基本理念を実現するための5つの基本方針】

まちが元気になる庁舎

- ・ にぎわいをうむ
- ・ 人が行き交い、商いが育まれる
- ・ 美濃加茂暮らしを楽しむ

安全・安心な庁舎

- ・ 災害に耐え、市民の暮らしを守る
- ・ 地域防災拠点として機能する

すべての人にやさしい庁舎

- ・ 利用しやすい
- ・ 働きやすい
- ・ バリアフリー
- ・ ユニバーサルデザイン

市民が集う開かれた庁舎

- ・ 市民協働ができる
- ・ 市民が気軽に関わり活動できる
- ・ ふらっと寄れる憩いのある空間

持続可能な庁舎

- ・ 環境負荷の低減
- ・ 自然環境を活かす
- ・ 社会ニーズや高度な技術への柔軟な対応ができる



「みんな」のまる



まちが元気になる庁舎のイメージシーン

今どきの市役所

市役所のつくり方は、時代や社会情勢の変化に合わせて変わってきています。

ここもポイント！

長岡市はまちににぎわいをつくるため、市役所機能をまちの中心部3ヶ所（徒歩で移動可能な距離）に分けて整備し、空きビルも使っています。



駅に直結し半屋外の広い市民広場を市役所の中心に整備した本庁舎+まちなかの大手通庁舎と市民センター庁舎（長岡市）



中心市街地活性化施策の一環として商業施設が入っていた複合ビルに移転した庁舎（新潟市中央区）



閉鎖した民間工場を買い取り利用した庁舎（山梨市）



廃校となった高校の体育館を利用した庁舎（氷見市）



20年間契約で民間からリースしている庁舎（高浜市）

まとめ知識

PFI（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）

公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う新しい手法です。民間のノウハウなどを活用することで、国や地方公共団体等が直接実施するよりも効率的かつ効果的に公共サービスを提供できる事業については、PFI手法を選択するケースがあります。

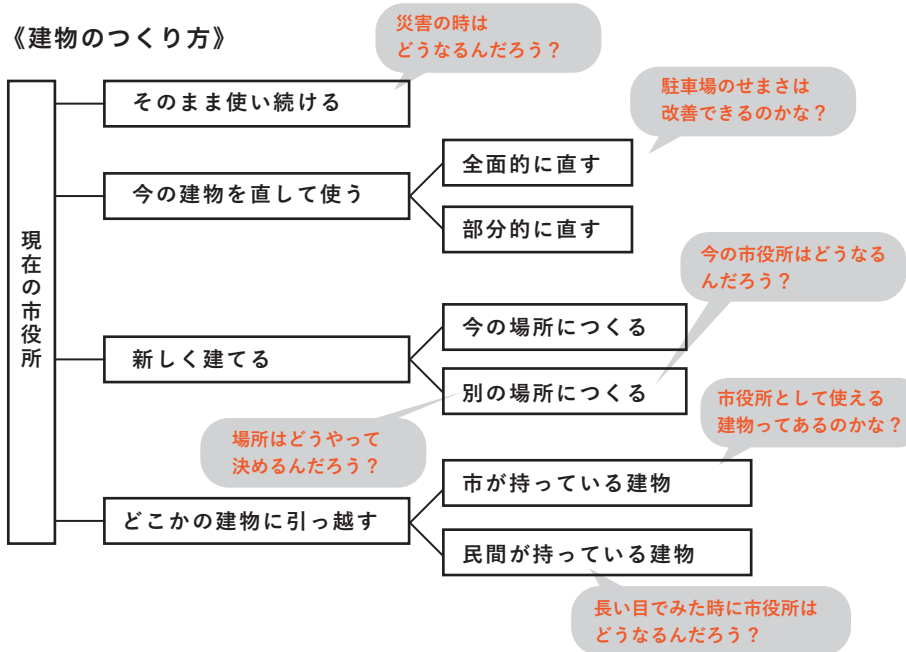


PFI手法で建設された紫波町庁舎

建物としての市役所

新しい市役所をつくる方法は1つではありません。手法によって良いところや残念なところがあるため、比較した上で、どの選択が一番良いのかを考えていきましょう。

《建物のつくり方》



安くて良いのはどの方法？

今までは、市が税金などを財源として建物を整備し、光熱水費を払い、メンテナンスをして建物を維持してきました。しかし、最近では、市の財政が厳しいことから、民間の資金や経営能力などを活用して、より安くより良い市役所を整備する方法が取られ始めています。美濃加茂市でも、これらを検討して、一番良い方法を選びたいと考えています。

《従来型》

市の資金で市がつくったものを使う

《PFI》

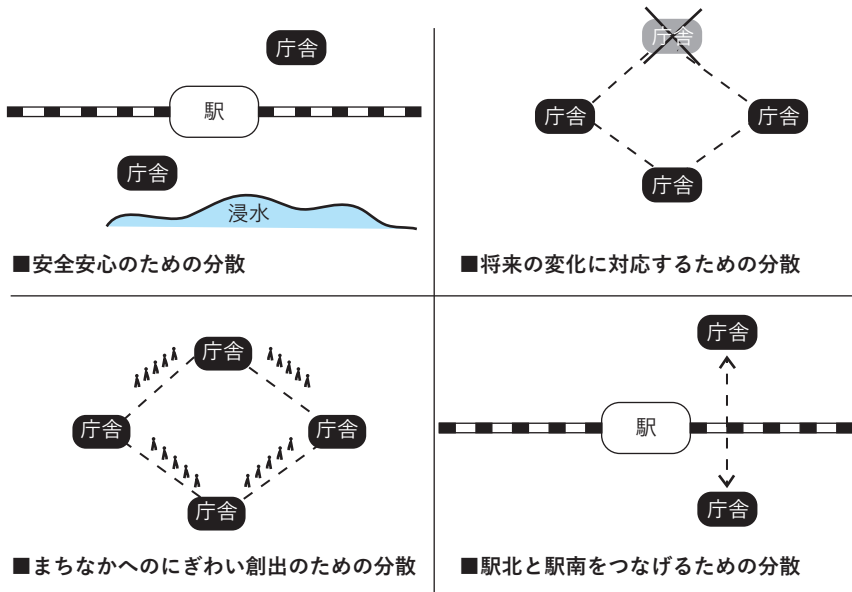
民間の資金で民間がつくったものを使う

《リース》

民間の建物を市が借りて使う

新しい市役所はひとつにすべき？

現在の市役所は、本庁舎、分庁舎、生涯学習センター、プラザちゅうたい、文化の森、山之上交流センターの6ヶ所で役割分担をしています。これらを1ヶ所にまとめることで利便性や作業効率上がるなどのメリットと、下図のような分散型のメリットとを比較し、新しい市役所のあり方を決定していきます。



まめ知識

これからの公共空間・公共施設「南池袋公園」

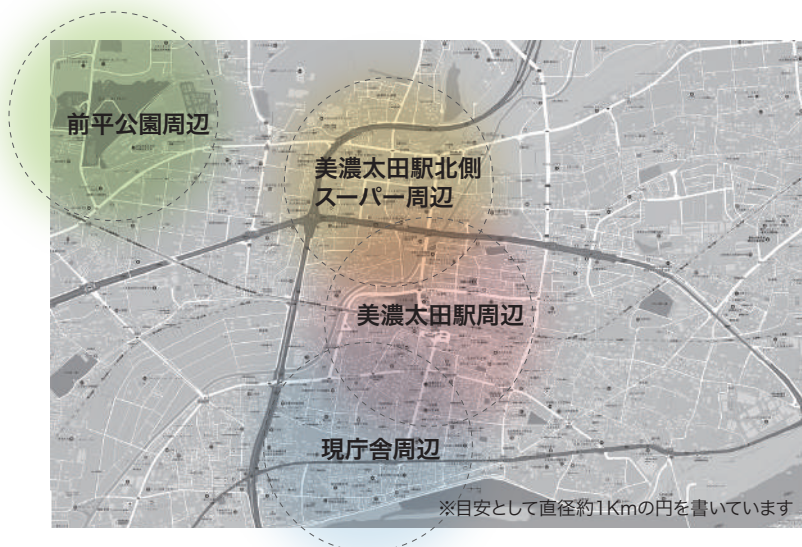
[公共の芝生広場 + 民間のカフェ]

カフェの一部の工事を公共が負担し、民間はカフェの家賃と公園の運営費の一部を負担しています。公共と民間が連携し、さびれた公園を子育て世代を中心としたにぎわいあふれる拠点に生まれ変わらせた事例です。毎月マルシェが開催されるなどまちの新しいスポットにもなっています。



新しい市役所はどこにあると良いだろう？

新しい市役所の場所については、「新しい市役所をまちづくり
にいかすには、どこにあると良いか」を考え、具体的な4つの候
補地（エリア）を選びました。



【市役所の候補地に求める6つのポイント】

- ポイント1 誰もが利用しやすく立ち寄りやすい場所であること
- ポイント2 駐車場を含め、庁舎として十分な広さが確保できること
- ポイント3 生活の利便性が高いエリアにあること
- ポイント4 土地の取得を含めて費用が抑えられていること
- ポイント5 自然環境や景観などが整っていること
- ポイント6 治安がよく、防災面においても安全で安心であること

4つの候補地は、市の主な公共施設が集まっているエリア内にあります。それぞれの強みや弱みについて考え、新しい市役所の場所を決める際に大事にすべき条件と、4つの候補地のまちづくりの可能性をまとめました。これらの条件に一番合う場所を検討して、新しい市役所の場所を決定していきます。

現代版 太田宿（2050年の美濃加茂市）のイメージ図



- ※1) フリーアドレス：固定の席を決めずに、自由に席を選ぶことができること。
※2) コワーキングスペース：事務所や会議スペースなどを共有し、独立した仕事ができるスペース。図書館のような開放されたスペースで働くことができる。

ITを使って
在宅勤務

社会の変化に
合わせられる

自宅で行政サービスが
受けられる

一日過ごしたり、
ほっとできる空間

市民活動拠点や起業相談・
コワーキングスペース ※2

まちなかの
子育て相談

まちなかに人の流れ
ができる

地元の物が集まるマルシェ

公共交通や自動運転の
車で来られる市役所

公園のような市役所

アウトドアやスポー
ツを楽しむ

活動レポート 01

美濃加茂市新庁舎整備 基本構想策定委員会

新庁舎整備に関して、学識経験者や団体代表者等、公募市民の方で構成された委員会で、市長からの4つの諮問事項について話し合っていました。

- ・ 現庁舎の課題整理について
- ・ 新庁舎に求められる基本機能について
- ・ 新庁舎整備の事業手法及び候補地等の比較分析について
- ・ 新庁舎をいかしたまちづくり構想について

第1回 それぞれの思いを発表



第2・3回 未来のまちの姿と庁舎の機能や役割



第4回 庁舎の立地について



第5回 庁舎の基本理念とまちづくり構想

第6回 まとめ

会長から一言



名城大学
都市情報学部教授
海道清信先生

委員全員が未来志向で議論を進めているのが素晴らしかった。「2050年になってもみんなが幸せを感じることができる庁舎のある未来」が実現できることを心から望みます。

世代、性別、立場の違う委員が集まり、美濃加茂の未来について真剣な議論が繰り返されました。

各委員の意見が反映されるように全体会議とグループワークを取り入れた美濃加茂市らしい委員会の運営とし、話し合われた内容はその都度「かわらばん」として市内全域に発信されました。



6/17
第1回

子育て世代（子ども、保護者）



自治会代表のみなさん



7/19
第2回

中学生・高校生



8/17
第4回

働く世代の
みなさん



7/24
第3回

障がい者と
その関係者のみなさん



8/25
第6回

活動レポート 02

おでかけ ワークショップ

新庁舎整備に関して様々な立場の方に広く意見を聴く場として、6つの団体にご協力をいただきました。各団体に共通して、次のような意見が出されました。

- ・災害時に機能する庁舎
- ・子どもを連れて行った時に退屈しないスペース
- ・広い通路、広い駐車場
- ・バリアフリー
- ・集まり・つながりの場

外国人のみなさん

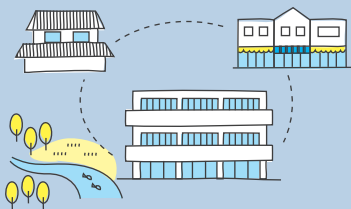


8/20
第5回

これからの美濃加茂を担う中高生からは、市役所を知る機会がなく、もっと身近なものとなる工夫が必要だとの意見が出ました。庁舎のあるべき姿は「つながり」、「交流」がキーワードになる、小中高生が得意なことを教える場があると良いなどの、未来に向けた前向きな意見を聞くことができました。

市民ワークショップ 「わたしたちが つくる未来、 わたしたちの庁舎」

市民ワークショップは、公募市民を対象に実施しました。全4回を開催し、議論を積み上げていく方式で進められました。2050年をひとつの区切りとして、今から約30年後も、市民のみなさんが楽しく暮らすまちであり続けるために「まち」や「庁舎」がどうなっているといいかを話し合い、未来のまちづくりにいかされる新庁舎のコンセプトを提案していただきました。話し合われた内容は、「市民ワークショップ通信」として市内全域に発信されました。



6/11
第1回

市役所とその周りの現状と
未来の理想のすがた



災害については
どうだろう？



7/15
第2回

未来の庁舎はどんな所に
あるだろう？



人が集まりやすいって
どういうことかな



ワークショップの進め方



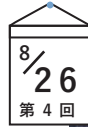
毎回最後には、各グループが発表を行い、みんなで意見や考え方を共有しました。全員が熱心に耳を傾けます。

ファシリテーターからの一言



多文化共生などの取り組みを長年取り組んでいる美濃加茂市らしく、世代や国籍、立場などを超え、互いの意見を尊重しながらワークショップが進んでいくのが印象的でした。

コーディネーター
しらはしさん



まちづくりにいかされる 庁舎のコンセプト

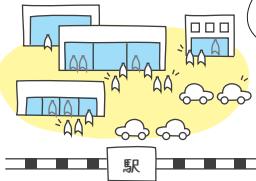


いろいろな面からみた 「まちの強み」「まちの弱み」



駅前と駅北スーパーではにぎわい方が違う感じがしますね

車や電車、バスなど交通手段はどうだろう

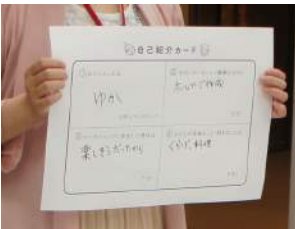


ファシリテーターからの一言

難しいテーマに対して、さまざまな意見が出され白熱した議論ができました。最終的に参加者みんなの思いがしっかり詰まったアイデアにまとめられて良かったです。



ミュキデザイン
おおさわさん



初めて顔を合わす人も話しやすいように自己紹介カードを使いました。



いろんな立場の意見が聞けるようなメンバー構成でグループづくりをしました。



みんなの意見が流れてしまわないように、メモを使ってまとめます。

みのかも 미래のコンセプトブック

発行：美濃加茂市

〒505-8606 岐阜県美濃加茂市太田町 3431 番地 1

TEL：0574-25-2111 FAX：0574-25-3917

<http://www.city.minokamo.gifu.jp>

問い合わせ先：美濃加茂市経営企画部施設経営課

編集・デザイン：株式会社ミュキデザイン

平成 30 年 2 月

本書は、美濃加茂市新庁舎整備基本構想策定委員会による答申（平成 30 年 1 月）を基に、基本構想の背景、検討過程、内容などをよりわかりやすくするために作成しました。

美濃加茂市新庁舎整備は今後も続きます。事業の進捗状況や詳細な内容は WEB にてご覧下さい。



